

もっと知りたい！現在・未来の暮らしと生活の情報誌

総務省



2024 年 10 月号

Vol.286

CONTENTS

地方のかがやき

P.8

福井県 越前市

3つの調査で、暮らしをよりよく

P.12

統計調査

国が実施する調査です

P.14

10月18日は「統計の日」

地域 DX のヒント

P.15

大阪府

デジタルの力で
地域の課題解決を図る取組

P.2

特集

① 令和6年能登半島地震における 情報通信の状況

② 進化するデジタルテクノロジー との共生

— 令和6年版情報通信白書の概要 —

表紙の写真：たけふ菊人形（開催期間：2024年10月4日（金）～11月4日（月・振休））



特集

① 令和6年能登半島地震における 情報通信の状況

② 進化するデジタルテクノロジーとの共生 —令和6年版情報通信白書の概要—

総務省は、本年7月、令和6年版情報通信白書を公表しました。
情報通信白書は昭和48年に前身の通信白書を公表して以来、今回で52回目の公表です。
本白書では、情報通信分野における市場の動向やデジタル活用の現状を概観し、
情報通信政策の現状と課題、今後の方向性等を整理するとともに、
特集テーマを定め、関連するトピックを取り上げています。



スマートフォン・タブレット用アプリと電子書籍を無料で提供しています

情報通信白書アプリ



情報通信白書電子書籍ダウンロードページ

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/e-book/index.html>

※アプリや電子書籍のダウンロードにかかるデータ通信料はご利用者の負担となります。

令和6年版情報通信白書の特集のポイント

今回の情報通信白書では、令和6年1月1日に発生した能登半島地震を受けて「令和6年能登半島地震における情報通信の状況」を特集として取り上げるとともに、「進化するデジタルテクノロジーとの共生」についても特集しています。

特集①「令和6年能登半島地震における情報通信の状況」では、令和6年能登半島地震における

通信・放送インフラの被害状況や復旧の取組、情報通信が果たした役割、浮かび上がった課題と今後の取組等について整理しています。次に特集②「進化するデジタルテクノロジーとの共生」では、AI等が社会・経済にもたらす新たな可能性とリスクに触れつつ、健全な活用に向けた取組を展望しています。

特集① 令和6年能登半島地震における情報通信の状況

第1章

令和6年能登半島地震における情報通信の状況

●令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震では、国民生活の重要なライフラインである情報通信インフラにも影響が大きく及び、北陸地方を中心に、通信回線の断線、停電等により通信サービスが利用できなくなる、テレビ・ラジオ放送が視聴できなくなる等の被害が生じました。このような中、民間事業者や自治体、政府機関が連携し、通信・放送の早期復旧に向けた取組が実施されました。

第2章

情報通信が果たした役割と課題

●地震発生時の情報収集手段は、2011年の東日本大震災時と比較して依然テレビ放送の割合が高くなっている一方、若年層を中心にSNSの割合が増加しました。一方、SNS上では、真偽不確かな情報が拡散し、混乱をもたらしました。
●今般の震災で浮かび上がった課題への対応として、携帯電話基地局、光ファイバや放送ネットワークの強靱化等の取組を推進していくとともに、インターネット上での偽・誤情報の流通・拡散に対しては、制度面を含む総合的な対策の検討が進められています。

特集② 進化するデジタルテクノロジーとの共生

第3章

デジタルテクノロジーの変遷

●AIは黎明期から現在まで、何度かのブームと冬の時代を繰り返して高度化してきました。ディープラーニングの発展はメタバース、ロボティクス、自動運転技術等の開発に寄与したほか、生成AIの登場は産業構造にも大きなインパクトを与えています。これらのデジタルテクノロジーの進展は、社会的・経済的課題解決に貢献することが期待されています。

第4章

デジタルテクノロジーの課題と現状の対応策

●進化してきたAIは我々の生活に利便さをもたらす一方、多様なリスクが存在しており、事業者、業界団体や政府等による対策検討が進められています。また、AIの急速な普及の中で生じた倫理的・

社会的な課題に対処するためには、国内のみならず諸外国と協調した取組が必要です。

第5章

デジタルテクノロジーの浸透

●日本における生成AI等の活用状況は欧米と比較すると低調である一方、今後の利用に前向きな割合は7割程度あり、潜在的なニーズは高くなっています。

第6章

デジタルテクノロジーとのさらなる共生に向けて

●生成AIをはじめデジタルテクノロジーの可能性・リスクがこれまでになく注目されている今、課題・リスクに対処しながら、デジタルテクノロジーの開発・活用を進め、社会全体の利益に資する、デジタルテクノロジーと“共に生きていく”ために必要な取組について整理しました。

特集① 令和6年能登半島地震における情報通信の状況

1. 通信、放送、郵便等の状況

- ▶ 今般の能登半島地震では、情報通信インフラにも影響が大きく及びました。
- ▶ 通信においては、固定電話※に最大約 7,800 回線、固定通信※に最大約 1,500 回線のサービスに障害が発生し、移动通信（携帯電話等）においては、最大 839 基地局（うち石川県 799 基地局）が停波しました。
※ NTT 西日本
- ▶ 放送においては、石川県輪島市の一部で NHK 及び民放テレビ4局が停波、最大約 2,130 世帯に影響が出ました。ケーブルテレビ 2 局も石川県内の一部で停波しました。
- ▶ 郵便においては、最大で 117 局の郵便局で窓口業務が休止したほか、郵便・物流事業の遅延・業務停止が発生しました。
- ▶ がけ崩れや土砂災害の影響で陸路からのアクセスが困難ななか、民間事業者や自治体、政府機関が連携し、通信・放送の早期復旧に向けた取組を実施しました。また、伝送路の断絶や携帯電話基地局の停電などで通信サービスが利用できなくなった地域が多く発生したことから、応急復旧にあたり衛星通信サービスが広く活用されました。

光ファイバの被害



出典：西日本電信電話

通信・放送の復旧・サービス継続に向けた取組



船上基地局・ドローン基地局
出典：NTT ドコモ、ソフトバンク

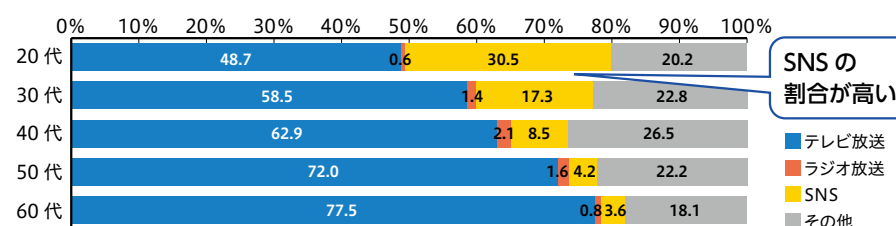


衛星通信サービスの活用
出典：KDDI

2. 情報通信が果たした役割と課題

- ▶ 地震発生時の情報収集手段として、2011 年の東日本大震災時と比較して依然テレビ放送の割合が高くなっています。また、若年層を中心に SNS の割合が増加しています。
- ▶ SNS は、若年層を中心に震災時の安否確認や情報収集に一定程度寄与した一方、震災に関連する“真偽不確かな情報”が流通・拡散し、混乱をもたらしました。

地震に気づいた後最初にアクセスしたメディア



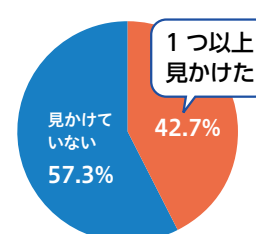
※アンケート調査対象は「(被災地に限らない) 全国の国民」、総サンプル数 2,060
調査時期：2024 年 3 月、Web アンケートにて実施。

出典：総務省 (2024) 「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

<SNS 上で真偽不確かな情報を見かけた割合>

真偽不確かな情報の例：

- ・個人で支援を募る投稿（寄付・募金等を求める投稿）
- ・東日本大震災等、異なる災害時の画像や動画を添付して被害状況を報告する投稿
- ・能登半島地震が人工地震であるとする投稿等



出典：総務省 (2024) 「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

- ▶ 真偽不確かな情報を“1つ以上見かけた”人のうち、**25.5% がその情報を拡散**
- ▶ 拡散した主な理由：
 - ・他の人にとって役に立つ情報だと思った。
 - ・その情報が興味深かった。
 - ・その情報が間違っている可能性があるという注意喚起をしようと思った。
 - ・人に注目してもらえと思った。

3. 浮かび上がった課題と今後の対応 ―通信・放送―

【通信】

- ▶ 今般の能登半島地震においては、停電や伝送路の切断等により、携帯電話基地局が長時間機能しない状態が発生しました。
- ▶ 携帯電話基地局の強靱化に当たっては、携帯電話基地局の蓄電池の長寿命化やソーラーパネルの設置等が必要です。
- ▶ また、光ファイバについても、電柱倒壊による光ファイバの切断を回避するための地中化等を推進することが必要です。
- ▶ さらに、非常時における事業者間ローミングの実現に向けて、2025 年度末頃までの導入を目指して技術的な検討・検証を行っています。

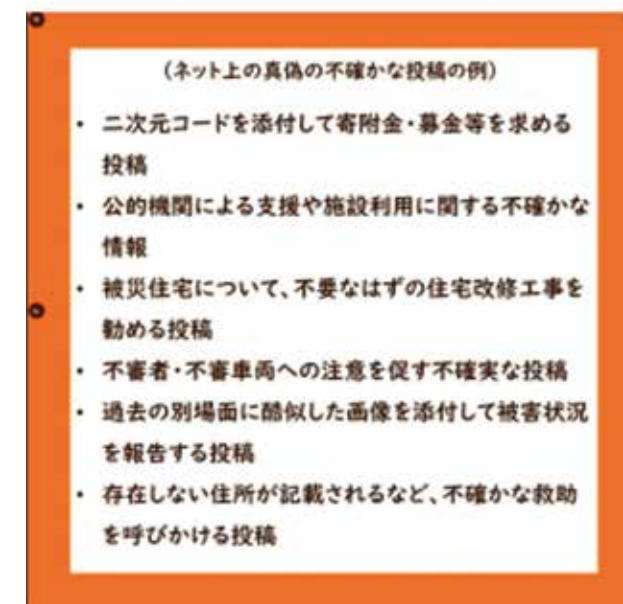
【放送】

- ▶ 発災直後から被災地に正確な情報を届けるという役割を果たした一方、停電や伝送路の断絶等による停波の課題が顕在化しました。
- ▶ センター施設の停電対策や伝送路の監視機能強化、中継局の共同利用や設備の共通化のほか、ケーブル網の光化・複線化等を実施することにより、放送ネットワークの強靱化等に取り組む必要があります。

4. 浮かび上がった課題と今後の対応 ―偽・誤情報への対応―

- ▶ 国民の SNS 利用の拡大も相まって、今般の能登半島地震においてはインターネット上における偽・誤情報の流通・拡散も課題として顕在化しました。
- ▶ 総務省では、発災翌日の 1 月 2 日に、SNS を通じてネット上の偽・誤情報に対する注意喚起を行ったほか、主要な SNS 等のプラットフォーム事業者に対し、利用規約等を踏まえた適正な対応を取るよう要請しました。
- ▶ 偽・誤情報の流通・拡散への対応について、制度面も含めた総合的な対策の検討を進めています。

< 総務省からの注意喚起 >

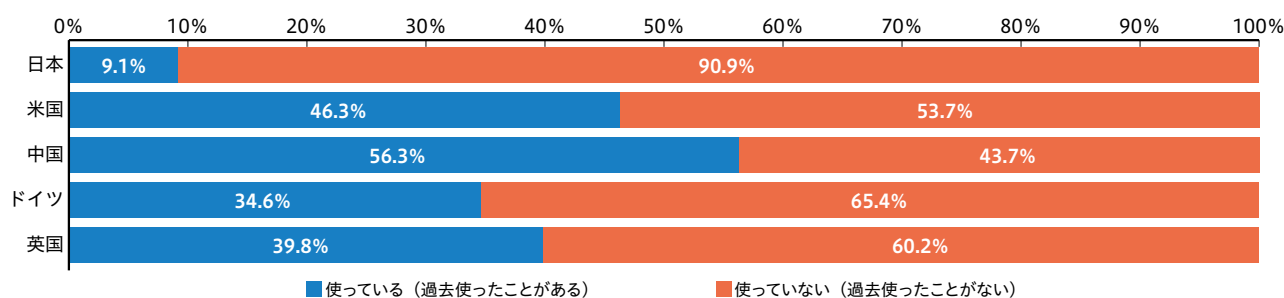


特集② 進化するデジタルテクノロジーとの共生

1. デジタルテクノロジーの変遷と浸透

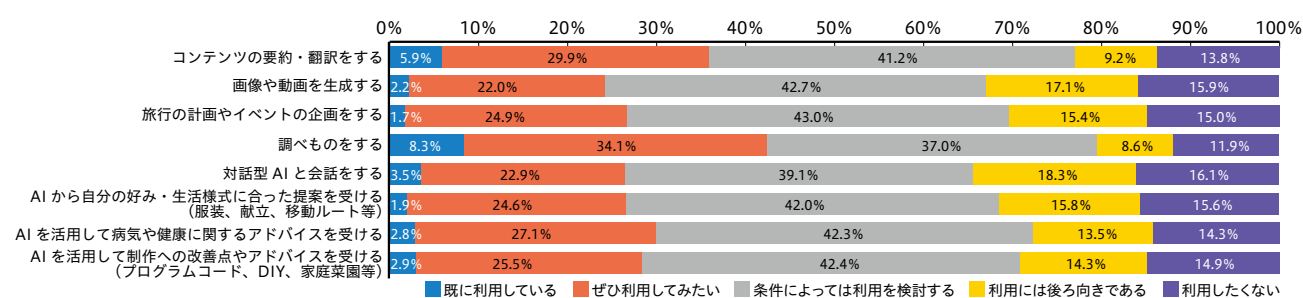
- ▶ AI は黎明期から現在まで、何度かのブームと冬の時代を繰り返して高度化してきました。ディープラーニングの発展はメタバース、ロボティクス、自動運転技術等の開発に寄与したほか、生成 AI の登場は産業構造にも大きなインパクトを与えています。これらの“デジタルテクノロジー”の進展は、社会的・経済的課題解決に貢献することが期待されています。
- ▶ 日本、米国、中国、ドイツ、英国の国民を対象に、生成 AI を含む、“デジタルテクノロジー”の利用状況等のアンケート調査を実施したところ、生成 AI を“使っている”（「過去に使ったことがある」も含む）と回答した割合は日本は 9.1% であり、他国と比べて低い結果となりました。
- ▶ 一方で、今後の暮らしや娯楽における生成 AI の活用意向について聞いてみると、日本では「既に利用している」と回答した割合は低いものの、「ぜひ利用してみたい」「条件によっては利用を検討する」と回答した割合が 6～7 割程度あり、潜在的なニーズがあることがうかがえました。
- ▶ 生成 AI、メタバースや自動運転等を利用したサービスが開発され、企業や公共団体において、教育、行政サービス、介護等各分野で活用が進んでいます。

生成 AI の利用経験（国際比較）



出典：総務省（2024）「デジタルテクノロジーの高度化とその活用に関する調査研究」

生成 AI の利用意向（日本）



出典：総務省（2024）「デジタルテクノロジーの高度化とその活用に関する調査研究」

メタバース活用事例

■メタバース区役所

出典：江戸川区



自動運転活用事例

■自動運転バス

出典：ソフトバンク



2. 生成 AI で顕在化した課題・リスクへの対応

- ▶ 進化してきた AI は我々の生活に便利さをもたらす一方、機密情報の流出、偽・誤情報の流通の加速等の多様なリスクが存在しています。
- ▶ AI の安全・安心の確保に向けて、AI の安全性の評価手法の検討等を行う機関として、日本に AI セーフティ・インスティテュート（AISI）が設立されました。
- ▶ 偽・誤情報対策としては AI 生成コンテンツを判別する技術の開発・実証も進んでいるほか、メディアを中心とした取組として、インターネット上の記事や広告に発信元の情報を付与する技術の開発等も進展しています。
- ▶ また、大規模言語モデル（LLM）開発は、データの取扱いの透明性や、公平な市場環境の確保、日本の国際競争力強化に向けた対策等が求められます。対策の一つとして、産官学が連携して国産 LLM の開発や大量・高品質で安全性の高い日本語中心の学習用データの整備が推進されています。

3. AI に関するルール整備・国際連携

- ▶ 生成 AI をはじめとする AI の急速な普及のなかで生じた倫理的・社会的な課題に対処するためには、国内のみならず諸外国との協調した取組が必要です。
- ▶ 我が国は、早期から G7 / G20 や OECD 等における議論を先導し、AI 原則の策定に重要な役割を果たしてきました。2023 年の G7 広島サミットの首脳コミュニケにおいて、生成 AI に関する議論のための広島プロセスの創設が指示され、12 月に「広島 AI プロセス包括的政策枠組み」等が、G7 首脳声明で承認されました。
- ▶ EU の AI 法の欧州議会での採択など、AI に関する法制度や国際標準に関する議論も世界各国で活発に行われています。各国政府が主導しつつも、AI 事業者の自主的な取組も必要であり、官民両輪で進められています。

4. 健全な活用、共生に向けた情報通信分野の取組

- ▶ AI を活用した多様なデジタルサービスは我々の生活に深く浸透しつつあり、メタバース、ロボティクス、自動運転技術等は地域活性化、防災等の我が国が抱える様々な社会的・経済的課題解決に貢献することが期待されます。
- ▶ こうしたテクノロジーを上手く活用し、共に生きる社会の実現に向け、サイバーセキュリティの確保に加え、以下のような取組の一層の推進が重要です。

健全な活用、共生に向けた情報通信分野の取組

①産業競争力の強化／社会課題解決のためのデジタルテクノロジーの活用

- デジタルテクノロジーの利用は、今やあらゆる産業における競争力強化・社会課題解決のために不可欠
- ▶ 各分野での利用促進に向け、AI の計算資源／高品質データの整備・拡充のほか、基盤モデルの研究開発を推進（AI 開発力の強化）
- ▶ 社会課題解決のため、ユースケースごとに求められるデジタルテクノロジーの活用を推進
- ▶ 公平な市場環境や利用者保護のための透明性向上等に向けた取組を推進

②デジタル空間の情報流通の健全性確保／活用に向けた人材育成・リテラシー向上

- 生成 AI で一層複雑化するデジタル空間の情報流通の健全性の確保に取り組むとともに、テクノロジーを使いこなすためのスキル向上が重要
- ▶ 偽・誤情報の流通・拡散への対応等について、プラットフォーム事業者等の幅広い関係者を含めた総合的な対策を推進
- ▶ 国民が適切に情報を受発信するためのリテラシーの向上施策を推進
- ▶ デジタルテクノロジーを適切かつ積極的に利用する人材の育成・スキルの向上を推進

③デジタルテクノロジーを支える通信ネットワークの実現

- AI によるネットワークの構造変化、メタバース等の新たなサービスの普及を受け、これらの技術を安定して使用できる通信ネットワークの需要が増大
- ▶ 超高速・超大容量・超低遅延のデータ流通、低消費電力を可能とする Beyond 5G に向けた取組を推進
- ▶ 自動運転の実現に向けた通信ネットワークの構築を推進

④安心・安全で信頼できる利用に向けたルール整備・適用と国際協調

- 国境のないデジタル空間では、国際社会と連携して標準化やルールを推進・形成していくことが重要
- ▶ AI 事業者ガイドラインの一層の普及・周知を進めるとともに、今後政府全体で制度の在り方等について検討
- ▶ 「広島 AI プロセス」の成果の普及・拡大をはじめとし、引き続き各国と連携しつつ AI ガバナンスに関する取組を主導



市民のウェルビーイングを大切にする歴史文化のまち

越前市

福井県
Echizen City



越前和紙

産地として1,500年の歴史があり、国指定の伝統的工芸品。市内には紙の文化博物館や卯立の工芸館、パピルス館があり、紙漉き体験等が可能。



越前打刃物

国指定の伝統的工芸品。700年ほど前、京の刀匠、千代鶴国安が刀剣を打ちつつ、農民のために鎌を製作するようになったのがおこりと伝わる。



越前箆笥

ケヤキやキリなどを材料に、釘を使わず木の板と板を組み（指物）、鉄製金具や漆塗りで装飾されたタンス。国指定伝統的工芸品。

越前国の国府が置かれ 紫式部が過ごした古都



紫式部公園

紫式部をしのんで造られた公園。3,000坪の敷地に越前富士と呼ばれる「日野山」を借景とする庭園があり、寝殿造（貴族の邸宅）の釣殿が再現されている。圓鑄勝三作の紫式部像や全長約160mの藤棚も見どころ。資料館「紫ゆかりの館」も隣接。



紙祖神 岡太神社・大瀧神社

山頂の奥の院に本殿がある。里宮の社殿は本殿と拝殿が連なり、複雑な構造の屋根を持つ。岡太神社には紙の女神、川上御前が祀られている。



タケフナイフビレッジ

14社が集結した越前打刃物の共同工房。13名が伝統工芸士の認定を受けている。作業風景を見学できるほか、体験教室も（予約制）。



タンス町通り

建具商や家具屋が建ち並ぶタンス町通り。江戸後期から木工技術を持った職人が移り住み、明治中期頃には指物師による町がつくられた。



千年先も輝く
ふるさとを
目指して

越前市長
山田賢一

本市は、大化の改新後に、北陸地方で最も早く国府が置かれた歴史あるまちです。日本三大和紙に数えられる越前和紙や世界の一流シェフも愛用する越前打刃物、越前指物の技術を駆使した越前箆笥など、ものづくりの技と心が受け継がれています。大河ドラマ『光る君へ』の主人公紫式部は、生涯でただ一度都を離れ本市で一年余りを過ごしました。「紫式部公園」の金色の式部像は、式部が歌に詠んだ霊峰・日野山を見つめています。北陸新幹線で東京から3時間6分でアクセスできます。ぜひ、県下随一の本市の歴史・文化、日本海の海の幸や山の幸を堪能しにお越しください。



紫ゆかりの館

令和3年4月にリニューアルした資料館。源氏物語を描くまでの紫式部の心模様を、几帳面グラフィックや絵巻物風映像でたどることができる。



千年未来工芸祭

全国から高度な技術を持つ職人が集結。作り手の技術や人柄に触れてもらい、次世代への継承のきっかけとするイベント。



「コウノトリが舞う里づくり」
イメージキャラクター
えっちゃん

Echizen City

人口：80,419人
(令和6年8月1日現在)

面積：230.70 km²

URL：https://www.city.echizen.lg.jp/



福

井県のほぼ中央に位置し、越前中央山地や丹生山地に囲まれる武生盆地にあるのが越前市です。

市の南部には「越前富士」として親しまれている日野山がそびえ、里地里山保全再生モデル事業に選ばれた西部地域にはコウノトリが飛来するなど希少な野生生物が多く生息する、自然環境に恵まれたまちです。

古くから越前国の中心地として栄えたまちでもあり、およそ1,000年前の平安時代には、朝廷が地方を司る国庁が置かれ、国守として赴任した父・藤原為時と共に紫式部が過ごしたことも。

市内には紫式部公園や資料館「紫ゆかりの館」などの関連施設があり、また大河ドラマ『光る君

へ』の放送に合わせて、武生中央公園では「光る君へ 越前 大河ドラマ館」を開設中です。

古来、北陸道や朝倉街道が通る交通の要衝で、現在も関西圏や中京圏の主要都市と北陸地方をつなぐ北陸自動車道や国道8号が市内を縦断しており、さらに今年3月には北陸新幹線の延伸にともない、「越前たけふ駅」が開業しました。

まちの中心部は昔ながらの風情をよく残し、国分寺や総社大神宮を中心に、石畳の風情豊かな寺町通りや、白壁の蔵を再生した店が並ぶ「蔵の辻」と呼ばれる一角があります。町屋も多く、その中には記念館となった絵本作家いわさきちひろの生家があります。



三大グルメ

越前市には地元民も熱愛するソウルフードが3つあり、左奥から「ボルガライス」、「たけふ駅前中華そば」、「越前おろしそば」。



越前に

福井の代表的な冬の味覚。市内にはいくつもの料亭があり、越前の新鮮な山海の幸や贅を尽くした料理の数々を堪能できます。



推進員が業務改革とデジタル化をリード DX 推進活動 「チャレンジ・越前」

昨年、策定した越前市行財政システム改革プラン「チャレンジ・越前」は、市民と職員のウェルビーイング（幸福実感）の向上をうたい、職員が生き生きと働けるようにすることにより市民サービスを向上させていこうというもので、市民サービス・市役所風土・財政の3つの改革を進めていくことを目標にしています。

具体的な取組としてDX（デジタル技術を活用した改革）の推進では、テレワークの推進やスマートフォンだけで手続きや相談がで

きる「手のひら市役所」の普及を掲げ、申請や届出などのオンライン化を順次進めています。

また今年度は、市役所の行政改革やデジタル化（自動化・電子化など）を進める中心的人材となる35名の「市役所変えよっさ推進員」（行政改革・デジタル化推進員）を各課に配置しました。

改革の旗振り役の養成やデジタル知識の普及、課題の掘り起こし、各部署の取組の水平展開といった効果も期待されます。



職員研修にも力を入れている。8月には市役所内で今年度4回目となる研修会を実施し、DXの最新情報や業務効率化の事例などを紹介した。



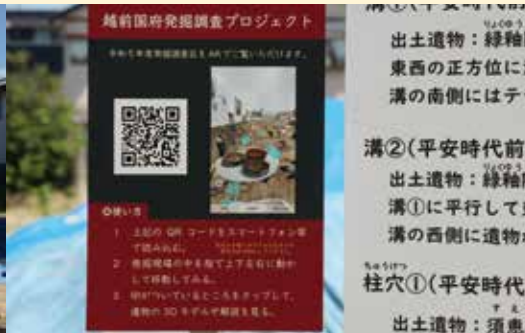
地域活性化企業人制度を活用して、本年度から越前市のDXエバンジェリストとして就任した下中氏。市のDX推進を伴走支援している。



仮想空間で発掘現場が目の前に 越前国府発掘プロジェクト



本興寺境内の発掘現場。鉛を主成分とした緑釉陶器の三足盤や耳皿が出土。位の高い人物がいた施設である可能性がある。



発掘現場に設置された看板のQRコードをスマートフォンやタブレットなどで読み込むと、調査時の遺構や出土品などの情報が表示される。



VRゴーグルを使用することで、実際の遺跡にいるかのような体験ができる。地域のイベントなどで、この体験を提供している。

越前市にはかつて越前国の国府が置かれ、国司が政務を行う国衙がありました。その所在地については、現在の中心市街地だったと推定されるものの、いまだに判明していません。

越前市はこれを明らかにするため、令和5年度から5か年計画で調査を進めています。

令和5年度は国衙の有力な候補地である本興寺の境内で発掘調査を行えることになり、公募に応じた市内外のボランティア39人が参加、市の学芸員と共に約100㎡の範囲を1.5mほど掘ったところ、東西方向に走る区画溝や当時、使われていたと思われる陶器などを見つけることができました。

遺跡は保存のために埋め戻す必要があったことから、発掘調査の成果を広く知ってもらうためデジタル技術で再現しています。収集したデータを基に、AR（拡張現実）やVR（仮想現実）の技術を使って、実際に遺跡の中に立っているかのような体験ができるようになりました。



国高地区の「キッズセーフ」。デジタルを活用した意欲ある地域による自主的な取組を応援するデジタル田園都市国家構想推進交付金の対象となった。



岡本地区の「キッズセーフ」。デジタル化することにより、紙のマップより掲載できる情報量が増え、更新も容易になる。



子どもたちの安全のために情報を共有 見守りマップ 「キッズセーフえちぜん」

越前市の国高地区自治振興会では、地域の子どもたちを守るために、公民館や小中学校PTA、民間事業者と共に危険箇所を調査し、地区の人が共有できるようWEB上に安全安心マップ「キッズセーフ」を公開しています。

地区の住民約100人が参加し、

あいおいニッセイ同和損害保険（株）の協力のもと、急ブレーキや急発進といった日常の運転状況のデータ収集も行いました。さらに過去3年間の地域の交通事故データも取り込んでいます。

危険箇所はマップで表示するだけでなく、注意をうながすために

現地に看板を設置したり、交差点に横断旗を用意したりといった対策も行っています。

国高地区の「キッズセーフ」の取組は市内の岡本地区や吉野地区にも広がり、地域の名所や文化資源などを含めたマップの作成も行われています。



紫式部ゆかりの地をアピール 越前「大河ドラマ館」と 「VTuber（ブイチューバー）」

世界最古の長編恋愛小説『源氏物語』の作者、紫式部ゆかりの地である越前市は、大河ドラマ『光る君へ』の放送に合わせて、期間限定（12月30日まで）で、「光る君へ 越前 大河ドラマ館」を開催しています。

また越前市はインターネットの動画投稿サイトで活動を行う仮想

キャラクターであるVTuber（バーチャルユーチューバー）に着目、「紫式部」や「若紫まい」などを市公認のVTuberとして制作しました。オリジナル楽曲「かぜゆかり」や「ヨスガ」をリリースするなど若者に対する情報発信力の強化にも力を入れています。

越前市の ここがすごい！

越前市公認VTuberの紫式部です♡行政系でお堅いと思われるがちですが、自由奔放にインコースギリギリ攻めた発言に貴方も恋に落ちるかも！？予想は裏切るのが期待は裏切らない式部をこの先1,000年愛してね♡



紫式部



若紫まい



若紫まいです！歌を中心に活動しています。越前市には越前おろしそば、ボルガライス、たけふ駅前中華そばの3大グルメなどおいしいものがたくさんありますよ！

番組で用いた衣装や小道具、キャストやスタッフのインタビューを交えた限定映像などを観ることができる「光る君へ 越前 大河ドラマ館」。

「大河ドラマ館」に併設して、越前の歴史展示やお土産どころ「光る越前SHOP」も同時開催中。



3つの調査で、くらしをよりよく

統計調査

国が実施する調査です



総務省統計局が毎月実施している統計調査には「**労働力調査**」、「**家計調査**」、「**小売物価統計調査**」があります。

その結果は、「**完全失業率**」や「**世帯の消費支出**」、「**消費者物価指数**」などとして毎月公表され、国民

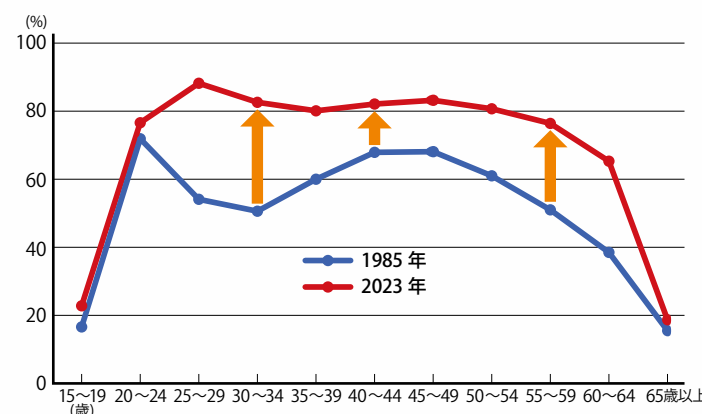
の共有財産として経済の発展や生活の向上に活用されています。

また、私たちの暮らしや社会の様相をあらわす様々なデータとして、新聞やテレビなどでも取り上げられています。

雇用が見える 労働力調査

雇用の実態を調べ「就業者数」や「完全失業率」などを明らかにする調査です。
結果は、雇用対策や景気動向を判断する資料として活用されています。

女性の年齢階級別労働力率の推移（1985年・2023年）



昔に比べて働く女性、増えたよね。

女性の年齢階級別の「労働力率^{※1}」をみると、「M字カーブ^{※2}」の底は、1985年は50.6%（30～34歳）でしたが、2023年は80.1%（35～39歳）となっており、M字の底が上昇し、台形に近づいています。

※1 労働力率とは、労働力人口比率（就業者＋完全失業者）÷15歳以上人口のことを指す。
※2 女性の労働力率は、一般に、学校卒業後の年代で上昇し、その後、結婚・出産を機に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、M字カーブを描くといわれる。

総務省統計局
ホームページ

～労働力調査・家計調査・小売物価統計調査のご紹介～ [はこちら](https://www.stat.go.jp/info/kouhou/keijyou.html)



インターネットでの回答が可能です 皆様の個人情報は厳重に保護されます

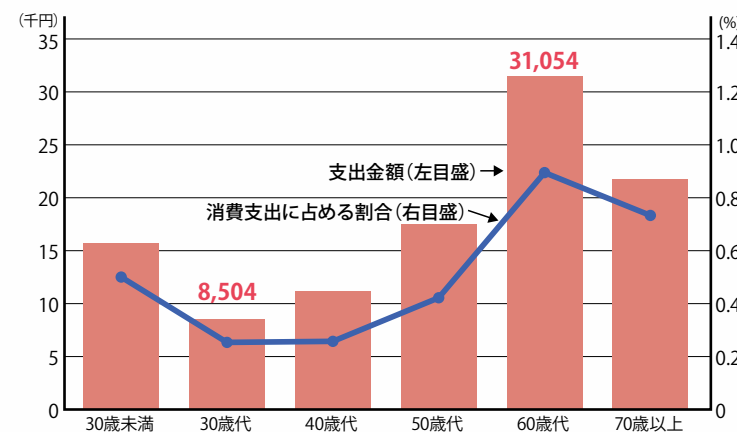
！統計調査を装った「かたり調査」にご注意ください 調査の結果は、暮らしをより良くする様々な取り組みに活かされています

※センサスくんとみらいちゃんは総務省統計局のイメージキャラクターです。

家計が見える 家計調査

家計の収入と支出の実態を明らかにする調査です。
結果は、年金制度の検討や医療費算定の資料として活用されています。

世帯主の年齢階級別「スポーツ施設使用料」の支出金額（二人以上の世帯）（2023年）



注）「スポーツ施設使用料」とは、ゴルフプレー料金、スポーツクラブ使用料、他のスポーツ施設使用料を含む。



健康維持のための運動にいくら使っている？

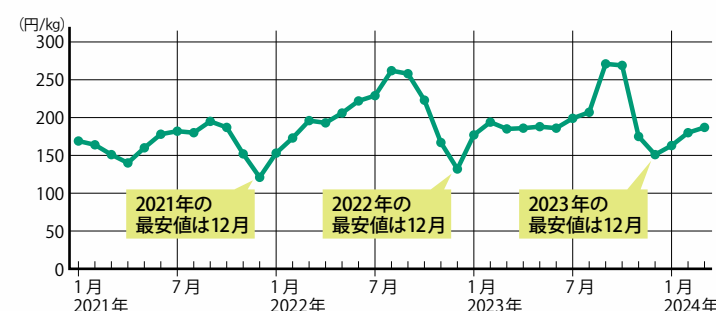
フィットネスクラブなどの「スポーツ施設使用料」の支出金額をみると、60歳代の世帯が最も多く、最も少ない30歳代の世帯の3.7倍になっています。



物価が見える 小売物価統計調査

商品の価格、サービスの料金の変化を明らかにする調査です。
結果は、消費者物価指数等として、年金額の改定をはじめとする各種施策に活用されています。

「だいこん」の小売価格の推移
東京都都区部（2021年1月～2024年3月）



だいこんは何月が安いのかしら？

「だいこん」の価格は、毎年、旬を迎える冬に安くなる傾向があり、2021年から2023年の最安値は、いずれも12月となっています。

結果からいろいろなことが見えてきます



これら3つの統計調査は、暮らしや社会の実態を反映し、国や地方公共団体が政策を行う際の重要な判断基準になります。

また、調査結果は、国民の共有財産として、研究・教育活動、経済活動などの幅広い分野で利用されています。

調査の対象になるのは、統計的な方法によって選定された一部の世帯や事業所で、誰もが対象になる可能性があります。

私たちみんなのより良い暮らしのためには、一人ひとりの回答が不可欠です。統計調査の重要性をご理解いただき、ご協力をお願いします。

10月18日は「統計の日」

我が国で最初の近代的生産統計である「府県物産表」に関する太政官布告が交付された日をもとに、毎年10月18日を「統計の日」としています。これは、統計の重要性に対する関心と理解を深め、統計調査に対する国民のより一層の協力を頂けるようにと昭和48年に閣議了解で

「統計の日」標語・ポスターの作成

総務省では、「統計の日」(毎年10月18日)の周知を図るため、毎年、「統計の日」のポスターをはじめとする広報媒体に活用すべく、標語を募集しています。

今年は、令和6年2月1日(木)から3月31日(日)にかけて募集を行ったところ、9,980作品もの応募をいただきました。これらの応募作品について、数次にわたる審査の結果、福島県いわき市の小学生の作品「今を知り 未来つこう 統計パワー」を特選作品に決定しました。

この特選作品を活用したポスターを作成し、地方公共団体にご協力いただき、全国の公共施設・学校等で掲示します。



第72回全国統計大会

令和6年12月4日(水)、国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟大ホール(東京都渋谷区)において、第72回全国統計大会を開催します。

全国統計大会は、国、地方公共団体、統計関係団体などの統計関係者が一堂に会し、統計功労者への各省大臣表彰などを行う予定です。

定められました。総務省政策統括官(統計制度担当)室では、各府省、地方公共団体等と連携し、この「統計の日」を中心として、各種関連行事を開催しますので、ご紹介します。

統計データ・グラフフェアの開催

統計データ・グラフフェアは、統計グラフ全国コンクールの入賞作品や関係省の統計調査に関する資料の展示、都道府県による統計データを用いた企画資料の展示のほか、令和7年国勢調査の紹介コーナーや、統計関連コンテンツ体験コーナーなどを設け、統計の面白さを感じていただけるイベントです。下記のとおり開催しますので、ぜひ、ご来場ください。

- 日時：10月19日(土)
10:00～20:00
10月20日(日)
10:00～17:00
- 場所：新宿駅西口広場
イベントコーナー



「統計の日」標語 特選・佳作作品

【特選作品】

- 小学生の部 ●

今を知り 未来つこう 統計パワー
(福島県いわき市立赤井小学校 6年 矢野 武)

【佳作作品】

- 中学生の部 ●

答えよう あなたの「答え」で 日本が変わる。
(京都府京都市立洛北中学校 3年 射場 きのの)

- 高校生の部 ●

統計は 未来をつくる 設計図
(早稲田大阪学園向陽台高等学校 竹平 咲希)

- 一般の部 ●

AI も 正しいデータ あればこそ
(神奈川県横浜市 由村 直樹)

- 統計調査員の部 ●

地味だけど 大切なんです 統計調査
(兵庫県西宮市統計調査員 若林 友美)

- 公務員の部 ●

あつまる統計 ひろがる未来
(神奈川県健康危機・感染症対策課 大内 隼)

注1 作品は、応募されたままの形式で掲載している。
注2 敬称略、学年は令和6年6月現在。



大阪府

デジタルの力で地域の課題解決を図る取組

地域 DX のヒント第7回は、公民連携により、デジタルの力で地域の課題解決を図る大阪府の取組を紹介します。

大阪府では、「大阪スマートシティ戦略」を策定し、住民の生活の質(QOL)の向上、民間との協業、社会実装の3つの基本姿勢のもと、“現場”を重視した実践的な取組を推進しています。その一つが、大阪府の呼びかけにより府内43市町村、企業、大学、シビックテック等と連携し、2020年に設立した「大阪スマートシティパートナーズフォーラム(OSPF)」(以下「OSPF」という。)です。現在、450を超える企業・団体が参画する日本最大級の公民連携プラットフォームとなっています。

OSPFでは、健康や子育てなど、市町村のニーズが高い8分野について課題を抱える市町村と、解決

のためのソリューションを有する企業をコーディネートしています。これまで、生活習慣病重症化予防に貢献するシステム構築や観光客の位置情報を活用したサービス提供など、多くの実証・実装プロジェクトを推進してきました。また、市町村職員によるプレゼンテーションを通し

て、市町村の課題を企業・団体にリアルに、深く知ってもらう場として「Meet-up」を開催するなど、自治体と企業・団体間の多様な交流機会を提供しています。

2025年大阪・関西万博を目前

大阪スマートシティパートナーズフォーラム(OSPF)
<https://smartcity-partners.osaka/>



に控え、OSPFが取り組む「公民共同エコシステム」の推進を通じて、プロジェクトを着実に進め、大阪モデルのスマートシティの実現をめざしています。

編集後記

editorial note

10月号をお読みいただきありがとうございます。

今回地方のかがやきで取り上げた福井県越前市は、紫式部が京都を離れて1年ほどを過ごしたまちです。市内には平安時代の庭園を再現した紫式部公園があり、池のそばにある釣殿という建物に入ると水辺の風が涼しく、貴族たちは

こういうところで涼みながら和歌を詠んだりしていたのだろうかなどと想像しました。

越前市はデジタル技術を駆使して様々な取組をしています。取材に伺った日にはちょうど業務DX推進イベントが実施されており、今回紹介しているデジタルツイン技術で再現した遺跡のVRを体験

させていただきました。実際の遺跡だけではなく、出土品の説明などがボタン1つで表示され、手軽に勉強できるのがメリットだなと思いました。

末尾になりましたが、今回ご協力いただきました皆さまには心より感謝申し上げます。

(広報室 C.H.)

3つの調査で、くらしをよりよく

とうけい

ちょうさ

統計調査

国が実施する調査です



センサスくん



みらいちゃん



家計が見える

かけいちょうさ

家計調査

家庭のお金がどのように使われているかを明らかにします。



雇用が見える

ろうどうりよくちょうさ

労働力調査

人々が働いている状況、失業の状況などを明らかにします。



物価が見える

こうりぶっかとうけいちょうさ

小売物価統計調査

モノやサービスの価格の変化などを明らかにします。消費者物価指数の基になります。



1か月分の食費はいくら？



どれくらいの人々が仕事をさがしているの？



だいこんは何月が安いのかしら？



たまには映画でも見ようかな。



昔に比べて働く女性、増えたよね。



物価が高い県と低い県の差はどのくらい？



健康維持のための運動にいくら使っている？



まだまだ働くぞ！



外食の値段気になるわ。

答えは裏面で！

統計調査員がお伺いしましたら、ご回答をお願いします。



インターネットでの回答が可能です



皆様の個人情報は厳重に保護されます



統計調査を装った「かたり調査」にご注意ください



調査の結果は、暮らしをより良くする様々な取り組みに活かされています



<https://www.stat.go.jp/>

統計局



◀ かわいい情報はこちらから ※一部の機種・アプリでは読み取れない場合があります



総務省統計局・都道府県